

201215007A (1/2)

## 厚生労働科学研究費補助金

### 医療技術実用化総合研究事業

大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：

牛車腎氣丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化

比較検証試験（臨床第Ⅲ相試験）

平成24年度 総括研究報告書（1/2冊）

研究代表者 掛地 吉弘

平成25（2013）年 4月

## 目次

I . 総括研究報告 大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の 有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験（臨床第Ⅲ相試験） 掛地 吉弘	-----	1
II . 研究成果の刊行に関する一覧表	-----	16
III. 研究成果の刊行物・別刷	-----	43

厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化総合研究事業）  
統括研究報告書

大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の有用性に関する  
多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験（臨床第Ⅲ相試験）

研究代表者　掛地　吉弘　神戸大学　教授

研究要旨　漢方薬である「牛車腎気丸」は、これまでの観察研究において、抗がん剤パクリタキセルやオキサリプラチンの末梢神経障害に対する有用性が示されている。本研究では標準的大腸癌化学療法におけるオキサリプラチンに起因する末梢神経障害に対する「牛車腎気丸」の有効性を検証する。統合医療のエビデンス創出を目指し、日本発の独創的研究成果として国内外に発信していく。がん医療の面からも、がん対策基本法に謳われた緩和医療、がん患者の症状緩和、QOLの向上、世界中の患者が悩まされている末梢神経障害の克服からも重要な観点と考えられる。本試験を開始するにあたり、試験プロトコールの作成の中で、選択基準、除外基準など、試験結果の精度に関する議論を十分に重ねてきた。本試験では、化学療法未施行の大腸癌根治切除症例を対象として、mFOLFOX6+牛車腎気丸併用群 155 例と mFOLFOX6+プラセボ併用群 155 例、合計 310 例を目標症例数に設定し、二重盲検ランダム化比較検証臨床第 III 相試験を実施する。主要評価項目を Grade2 (CTCAE v4.0) 以上の末梢神経障害の発現までの時間 (TTN) 、副次的評価項目を L-OHP を休薬および中止判断した症例割合、L-OHP dose intensity、末梢神経障害発生割合、末梢神経障害以外の有害事象発生割合とする。インターネットを利用した Electron Data Capture (EDC) システムを構築し、平成 22 年 10 月 22 日から症例登録が始まった。平成 24 年 2 月、登録症例数が 155 例となり、プロトコール計画どおり、有効性の中間解析に着手。平成 25 年 5 月 7 日効果安全性評価委員会を開催し、委員会から追加の解析指示あり。平成 24 年 8 月 2 日第 2 回効果安全性評価委員会を開催。「試験の無効中止」の勧告があり、研究グループとして無効中止と決定した。平成 25 年 2 月 4 日班会議を開催。中間解析内容について検討した。実地医療への影響を鑑み、九州大学病院より「試験の無効中止」についてプレスリリースを行った。現在、最終解析を進行中である

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機 関における職名	河野 透 旭川医科大学消化器病態外科 准教授
前原 喜彦 九州大学大学院消化器・総合外科 教授	小寺 泰弘 名古屋大学医学部消化器外科 教授
大石 了三 九州大学病院薬剤部 教授	小林 道也 高知大学医学部医療管理学 教授
加藤 広行 獨協医科大学第一外科 教授	島田 光生 徳島大学消化器・移植外科 教授
桑野 博行 群馬大学大学院病態総合外科 教授	猶本 良夫 川崎医科大学総合外科学 教授
鴻江 俊治 九州大学大学院外科分子治療学 客員教授	夏越 祥次 鹿児島大学大学院消化器外科 教授

馬場	秀夫	熊本大学大学院消化器外科学教授	古畑	智久	札幌医科大学外科学第一講座准教授
藤井	雅志	日本大学医学部消化器外科教授	坂井	義治	京都大学医学研究科消化管外科教授
森	正樹	大阪大学大学院消化器外科教授	平川	弘聖	大阪市立大学大学院腫瘍外科教授
吉田	和弘	岐阜大学大学院腫瘍外科学教授	藤田	文彦	長崎大学大学院移植・消化器外科講師
竹内	正弘	北里大学薬学部臨床統計学教授	白水	和雄	久留米大学医学部外科学教授
赤澤	宏平	新潟大学医歯学総合病院医療情報部 教授	前田	耕太郎	藤田保健衛生大学下部消化管外科教授
山中	竹春	九州がんセンター臨床研究部腫瘍統計学研究室 室長	松井	康司	岐阜市民病院外科 内視鏡外科部長及び外科副部長
森田	智視	横浜市立大学臨床統計学・疫学教授	今野	弘之	浜松医科大学外科学第二講座教授
江見	泰徳	九州大学病院消化管外科 特任准教授	袴田	健一	弘前大学大学院消化器外科教授
藤原	俊義	岡山大学大学院消化器・腫瘍外科教授	三浦	康	東北大学病院胃腸外科講師
調	憲	九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科 准教授	西村	元一	金沢赤十字病院外科副院長
森田	勝	九州大学大学院消化器・総合外科診療准教授	山口	明夫	福井大学医学部附属病院第一外科教授
坂口	善久	九州がんセンター消化器外科部長	權	雅憲	関西医科大学外科学教授
池口	正英	鳥取大学医学部病態制御外科教授	石田	秀行	埼玉医科大学総合医療センター消化器・一般外科 教授
後藤	昌弘	大阪医科大学・化学療法センター講師	森田	隆幸	青森県立中央病院外科がん診療センター長
室	圭	愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 部長	滝口	伸浩	千葉県がんセンター消化器外科臨床検査部長
西巻	正	琉球大学大学院消化器・腫瘍学教授	檜井	孝夫	広島大学病院消化器外科 講師
加藤	健志	関西労災病院下部消化管外科部長	渡邊	昌彦	北里大学医学部外科学教授
永安	武	長崎大学大学院腫瘍外科 教授	沖	英次	九州大学病院消化管外科講師
緒方	裕	久留米大学医学部附属医療センター消化器外科 教授	三宅	泰裕	箕面市立病院下部消化管外科がん診療推進診療副部長
富田	尚裕	兵庫医科大学下部消化管外科教授	楠本	哲也	九州大学病院消化管外科准教授
小島	宏	愛知県がんセンター愛知病院消化器外科 部長	佐伯	浩司	九州大学病院消化管外科講師
小坂	健夫	金沢医科大学一般・消化器外科教授	山田	岳史	日本医科大学消化器外科 講師
折田	博行	国立病院機構別府医療センター外科医長			
池田	哲夫	九州大学大学院消化器・総合外科准教授			

#### A. 研究目的

大腸癌は増加が著しい悪性腫瘍の一つであり、新しい抗がん剤の開発は、患者の生存期間の延長に貢献している半面、副作用で苦しめられて

いる患者は著しく増加している。オキサリプラチンの末梢神経障害もその一つであり、世界中で問題となっており、この症状の克服は、がん患者のQOL向上にとって福音である。わが国では西洋医学を中心とした医療の中に、東洋医学である漢方薬を取り入れた独自の医療、統合医療が進展しつつあるが、これまでには、その有効性に客観的データが乏しいことも事実である。研究目的は次の二つである。

- 1:オキサリプラチンを含む大腸癌標準化学療法における漢方製剤：牛車腎気丸の末梢神経障害軽減における有効性を検証する。
- 2:漢方製剤の有効性を、プラセボを用いることにより多施設共同二重盲検ランダム化比較試験で科学的・客観的に比較検証する。

本研究の成果は、①統合医療のエビデンス創出法の範となるばかりではなく、西洋医学の範囲である抗がん剤の副作用軽減に対して漢方薬併用の統合医療が確立される。②患者のQOL・ADLを著しく損なう抗がん剤オキサリプラチンの末梢神経障害を軽減できることは、患者満足度を向上させる。③抗がん剤オキサリプラチンの末梢神経障害を軽減可能になるとオキサリプラチニの投与可能性が高まり、癌抑制効果、ひいては無増悪生存期間、全生存期間の延長にもつながる。④さらに内服薬である牛車腎気丸は頻回の通院が不要であり、患者の社会活動の確保に対する効果も期待でき医療経済的效果も極めて大きいと考える。

## B. 研究方法

試験デザイン：プラセボコントロール（二重盲検）、多施設共同ランダム化比較検証試験（第III相試験）

対象疾患：化学療法未施行の大腸癌根治切除症例

試験薬：漢方製剤 ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒（医療用）およびプラセボ：プラセボは（株）ツムラが既に設計・開発している。試験薬（実薬およびプラセボ）は、研究協力組織（株）ツムラより納入。

試験薬の管理：研究参加施設である九州大学病院に試験薬中央管理部門（治験管理室）を置く。試験薬中央管理責任者は、割付調整結果に従い、各実施施設の試験薬管理責任者に（株）ヤマトロジスティックを通じて試験薬を送付する。各研究参加施設は、試験薬管理責任者（薬剤部、治験管理室等）を指名し、試験薬管理責任者は、臨床試験計画書ならびに各施設の管理規定に従いながら試験薬を管理し、被験者に処方する。試験責任（分担） 医師は、被験者に服薬日誌を記入してもらい、未内服の試験薬は回収する。

試験群：

A群：FOLFOX12コース+牛車腎気丸（試験治療群）  
155例

B群：FOLFOX12コース+プラセボ（コントロール群）155例

割付調整因子：施設、pStage（最小化法）

評価項目：主要評価項目：Grade2 (CTCAE v4.0)  
以上の末梢神経障害の発現までの時間 (TTN)

副次評価項目：L-OHPの用量、有害事象など

症例数の設定根拠：プラセボ群の累積発生率を40%、牛車腎気丸群の累積発生率を25%、 $\alpha = 0.025$ （片側）、 $1 - \beta = 0.80$ と設定したとき、ログランク検定を行なうための必要イベント数は95件、これを症例あたり6ヶ月の追跡期間で達成するための症例は291例と計算される。以上の考察、および打ち切り例などの発生も考慮して、計310例を予定登録数とした。

登録・データ収集：（株）イーピーエスと契約を行った。インターネットを利用したElectron Data Capture (EDC) システムを構築し、Web上でデータモニタリングを行い、被験者の安全性を担保するとともに、試験実施全体の品質管理を行う。

選択基準：

- 1) 本臨床試験の参加について本人により文書にて同意が得られている。
- 2) 試験責任医師が本臨床試験の対象として適当と判断した症例。
- 3) 組織学的に大腸癌と診断されている（虫垂癌は除く）。腫瘍下縁が腹膜翻転部より口側

にある。

- 4) 組織学的所見における病期が pStageⅢa、pStageⅢb である。
- 5) 根治度 A (CurA) の手術がなされたと判断されている。
- 6) 登録時の年齢が 20 歳以上 80 歳以下である。
- 7) Performance Status (ECOG) が 0-1 である。
- 8) 手術後 8 週以内である。
- 9) 主要臓器の機能が保持されている。

研究期間：症例登録期間：登録開始から2.5年間  
主要評価項目追跡期間：最終症例の登録から6ヶ月

年次計画：平成 22 年度：臨床試験計画書の策定および EDC システムの構築、臨床試験計画書の確定とともに各施設での倫理委員会での承認を得る。試験薬の管理体制の確立とともに平成 22 年 10 月 1 日症例登録を開始する体制を構築した。平成 23-24 年度は症例登録の継続と最終症例登録後 6 ヶ月時点での主要評価項目を含む、「主たる解析」を行う。その他、無病生存期間や全生存期間は、継続観察を行う。

#### (倫理面への配慮)

本試験に関与するすべての者は最新の「世界医師会ヘルシンキ宣言」および「臨床研究に関する倫理指針」に従う。説明文書・同意書（様式）および同意撤回書は試験責任医師が作成する。また、作成した説明文書・同意書（様式）および試験実施計画書は試験開始前に所属する医療機関の倫理審査委員会に提出し、その承認を得る。試験に携わる関係者は被験者の個人情報保護に最大限の努力をはらう。試験責任医師および試験分担医師は、症例登録票および症例報告書等を当該医療機関外に提供する際には、連結可能匿名化を行うために被験者識別コードを付し、それを用いる。医療機関外の者が、被験者を特定できる情報（氏名・住所・電話番号など）は記載しない。登録・データセンターが医療機関へ照会する際の被験者の特定は、試験責任医師および試験分担医師が管理する被験者識別コードおよびデータセンターが発行した登録番号を用いて行う。原資料の直接閲覧を行つ

たモニタリング担当者、監査担当者、規制当局の担当者などは、そこで得られた情報を外部へ漏洩しない。主任研究者等が試験で得られた情報を公表する際には、被験者が特定できないよう十分に配慮する。

#### C. 研究結果

##### (プロトコール)

平成 23 年度の当該研究課題「大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験（臨床第Ⅲ相試験）」の採択に際して、当研究のプロトコールの細部に関して推敲を重ねてきた。まず、平成 22 年 6 月 25 日に東京で開催された班会議において、研究代表者、研究分担者により具体的なプロトコールの内容について審議を行い、その後もプロトコール委員とのメール会議にて内容を吟味し、最終的には平成 22 年 10 月 6 日にプロトコール第 1.1 版が完成した。各研究分担者へ発送し、全研究施設の倫理審査委員会へ申請、承認。代表施設として九州大学において COI 委員会で承認された。

##### (症例登録およびデータマネジメント)

上記の確定とともに、臨床試験遂行にあたり症例登録・モニタリング・データマネジメントを外部機関に委託することを決定した。データマネジメント部分を研究担当者から切り離し、データの質および信頼性を確保する目的である。

##### (品質保証・管理)

イーピーエス株式会社と契約を進め、Web システム（EDC システム）による症例登録、データ収集管理構築を誠意進めている。また、臨床試験のプロトコールは大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）「臨床試験登録システム」に登録を行つた。

すでに倫理審査で承認された施設へは、EDC システムへ入るためのパスワード等を付与し、症例登録が始まった。

各症例の治療結果の報告は、化学療法のコース（2 週）毎に EDC システムを利用した報告を

義務付け、被験者の安全ならびに試験全体の精度の向上を目的に中央モニタリングを行う体制を構築した。その上で、安全性・精度のさらなる向上のために、必要に応じた訪問モニタリングも可能な規定としている。

#### (試験薬（プラセボおよび実薬）の作成)

研究協力組織の（株）ツムラにより、法規・規定に沿って作成され、本研究に対して納入された。

#### (試験薬管理（中央）・発送)

今回は試験薬（プラセボおよび実薬）を使用した臨床試験のため、ヤマトロジスティック株式会社と契約をし、試験薬の保管・管理や発送業務について委託することとした。管理薬剤師の元、試験薬の管理に問題ないことを確認している。この業務もWebシステム（EDCシステム）で管理体制を構築している。

#### (試験薬管理（各施設）)

試験責任・分担者とは独立に、試験薬管理責任者を各施設に設置し、試験薬の受領・保管・処方・数量管理等を行う体制を確立した。この業務もWebシステム（EDCシステム）で管理体制を構築した。

平成22年10月22日から症例登録が始まった。平成24年2月、登録症例数が155例となり、プロトコール計画どおり、有効性の中間解析に着手。EPS中間解析専門チームで解析作業を行い、平成25年5月7日効果安全性評価委員会を開催した。解析チーム、効果安全性評価委員すべてが研究チームから独立したメンバーで構成されている。中間解析の結果、委員会から1) 症例登録の停止。2) 継続例の現状治療継続。3) 研究チームから統計解析責任者の中間解析への参加。4) 追加解析の勧告があった。追加解析については、  
1) サンプル施設での試験薬管理体制の再確認  
>九州大学病院での管理体制の確認（EPS担当）。  
2) 試験薬の実薬・プラセボの再確認>試験薬管理倉庫から無作為抽出した20症例分の試験薬をブラインド下にツムラ（株）に実薬とプラセボを調査依頼。群分けコードを確認した。3)  
中間解析データの内容確認>EPS解析チームと

試験統計責任者が確認した。追加の解析指示に対処後、平成24年8月2日第2回効果安全性評価委員会を開催。このまま試験を継続しても、試験目的の牛車腎気丸実薬の末梢神経障害抑制効果を証明できる可能性は非常に低い（futility = 0.0000）として、効果安全性評価委員会から「試験の無効中止」の勧告を受けた。研究グループとして試験中止と決定し、継続治療症例の試験薬治療を直ちに中止、結果の最終解析に進んだ（試験介入部分ではない術後補助化学療法については担当医の判断で継続）。平成25年2月4日班会議を開催。中間解析内容について検討した。実地医療への影響を鑑み、九州大学病院より「試験の無効中止」についてプレスリリースを行った。現在、最終解析を進行中である。

#### D. 考察

切除不能大腸癌に対するオキサリプラチニン末梢神経障害の、漢方薬：牛車腎気丸による治療的軽減効果、中には予防的な軽減効果を報告した観察研究、小試験の結果は報告されてきた。本臨床試験への参加研究者からも同様の臨床的実感の意見が述べられている。しかし、本試験の結果から結腸癌術後補助化学療法時のオキサリプラチニン末梢神経障害の予防的軽減効果は証明できなかった。オキサリプラチニン末梢神経障害には、急性障害と蓄積性の慢性障害の2種類があるとされているが、今回の試験は蓄積性慢性障害の予防的抑制を目的としているが、牛車腎気丸の作用機序、抑制効果が急性障害と慢性障害において異なることが、実験的報告からも示唆され、このような違いが、臨床的実感と試験結果の乖離に繋がった可能性がある。また、今回の対象症例は、西洋医学的、臨床試験的な適格基準で選択された症例である。漢方薬の場合、「証」をもってその適応が判断されることが基本であるが、この点が、臨床試験の結果に影響を及ぼしたのかもしれない。

#### E. 結論

結腸癌術後補助化学療法時の漢方薬：牛車腎気丸によるオキサリプラチニン末梢神経障害の軽減効果は証明できなかった。

#### F. 健康危険情報

なし

- G. 研究発表
1. 論文発表
- 1) Yoshida R,Tazawa H,Hashimoto Y,Yano S,Onishi T,Sasaki T,Shirakawa Y,Kishimoto H,Uno F,Nishizaki M,Kagawa S,Fujiwara T. Mechanism of resistance to trastuzumab and molecular sensitization via ADCC activation by exogenous expression of HER2-extracellular domain in human cancer cells. *Cancer Immunol Immunother.* 61 : 1905–1916,2012
  - 2) Watanabe Y,Hashimoto Y,Kagawa S,Kamura,Nagai K,Tanaka N,Urata Y,Fujiwara T. Enhanced antitumor efficacy of telomerase-specific oncolytic adenovirus with valproic acid against human cancer cells. *Cancer Gene Ther.* 19: 767-772,2012
  - 3) Ohara T,Noma K,Urano S,Watanabe S,Nishitani S,Tomono Y,Kimura F,Kagawa S,Shirakawa Y,Fujiwara T. A novel synergistic effect of iron depletion on anti-angiogenic cancer therapy. *Int. J. Cancer.* in press,2012
  - 4) Shigeyasu K,Kagawa S,Uno F,Nishizaki M,Gochi A,Kimura,Takahata T,Nonaka Y,Ninomiya M,Fujiwara T. Multicenter phase II study of S-1 and docetaxel combination chemotherapy for advanced or recurrent gastric cancer patients with peritoneal dissemination. *Cancer Chemother. Pharmacol.* in press,2013
  - 5) Yoshikawa K, Shimada M, Nishioka M, Kurita N, Iwata T, Morimoto S, Miyatani T, Komatsu M, Kashihara H, Mikami C. The effects of the Kampo medicine (Japanese herbal medicine) "Daikenchuto" on the surgical inflammatory response. *Surg Today*: 42(7), 646-651,2012
  - 6) Chikakiyo M, Shimada M, Nakao T, Higashijima J, Yoshikawa K. Kampo medicine "Dai-kenchu-to" prevents CPT-11 induced small intestinal injury in rats. *Surg Today*. 42(1): 60-67,2012
  - 7) Maehara Y,Tsujitani S,Saeki H,Oki E, Yoshinaga K,Emi Y,Morita M,Kohnoe S,Kakeji Y,Yano T,Baba H. Biological mechanism and clinical effect of protein-bound polysaccharide K(KRESTIN®): review of development and future perspectives. *Surg Today*. 42(1): 8-28,2012
  - 8) Tsuji Y,Satoh T,Tsuji A,Muro K,Yoshida M,Nishina T,Nagase M,Komatsu Y,Kato T,Miyata Y,Mizutani N,Hashigaki S,Lechuga J M,Denda T. First-line sunitinib plus FOLFIRI in Japanese patients with unresectable/metastatic colorectal cancer: A phase II study. *Cancer Science.* 103 (8): 1502-1507,2012
  - 9) Iwasa S,Goto M,Yasui H,Nishina T,Takahashi D,Nakayama N,Taira K,Kusaba H,Fuse N,Hironaka S,Shimada Y,Na kajima TE. Multicenter feasibility study of combination therapy with Fluorouracil, Leucovorin and Paclitaxel (FLTA X) for peritoneal disseminated gastric cancer with massive ascites or inadequate oral intake. *Jpn J Clin Oncol.* 42 (9): 787-93,2012
  - 10) Yoshida M,Goto M,Kii T,Nishitani H,Kawabe S,Kuwakado S,Asaishi K,Miyamoto T,Higuchi K. Retrospective study as first-line chemotherapy combined anti-VEGF antibody with fluoropyrimidine for frail patients with unresectable or metastatic colorectal cancer. *Digestion.* 2013 (87): 59-64,2013
  - 11) Takahashi T, Shibata Y, Tojima Y, Tsuboi K, Sakamoto E, Kunieda K, Matsuoka H, Suzumura K, Sato M, Naganuma T, Sakamoto J, Morita S, Kondo K. Multicenter phase II study of modified FOLFOX6 as neoadjuvant chemotherapy for patients with unresectable liver-only metastases from colorectal cancer in Japan: ROOF study. *International Journal of Clinical Oncology.* In press,2012
  - 12) Sugihara M, Morita S, Yamanouchi N, Sakai S, Ohba N, Ichikawa W, Ohashi Y. Dynamic registration method with balancing for prognostic factors in observational studies. *Journal of Biometrics & Biostatistics.* In press
  - 13) 緒方裕、竹内正昭、石橋生哉、岐部史郎、高橋健二郎、内田信治、村上直孝、矢原敏郎、白水和雄. 成分栄養製剤エレンタール投与による大腸癌化学療法誘発口内炎の予防効果. *癌と化学療法.* 39(4): 583-587,2012
  - 14) 蔵王なお、高良美紀、笛原徳子、久保裕子、緒方裕、下朝里、靄田美恵子. 診察前面談と電話による服薬支援「XELOX療法サポート」の有用性. *日本病院薬剤師会雑誌.* 48(12): 1461-1465,2012
  - 15) Yutaka Ogata,Takaho Tanaka,Yoshihito Akagi,Nobuya Ishibashi,Yoshiaki Tsuji,Keiko Matono,Makoto Isobe,Susumu Sueyoshi,Atsushi Kaibara and Kazuo Shirouzu. Multicenter Phase II Study of a New Effective S-1 and Irinotecan

- Combination Schedule in Patients with Unresectable Metastatic or Recurrent Colorectal Cancer. Clinical Medicine Insights:Oncology 2013.7: 21-30,2013
- 16) Ushio S, Egashira N, Sada H, Kawashiri T, Shirahama M, Masuguchi K, Yano T, Oishi R. Goshajinkigan reduces oxaliplatin-induced peripheral neuropathy without affecting anti-tumor efficacy in rodents. Eur J Cancer. 48(9): 1407-1413,2012
- 17) Sada H, Egashira N, Ushio S, Kawashiri T, Shirahama M, Oishi R. Repeated administration of amitriptyline reduces oxaliplatin-induced mechanical allodynia in rats. J. Pharmacol. Sci. 118(4): 547-551,2012
- 18) Shirahama M, Ushio S, Egashira N, Yamamoto S, Sada H, Masuguchi K, Kawashiri T, Oishi R. Inhibition of Ca<sup>2+</sup>/calmodulin-dependent protein kinase II reverses oxaliplatin-induced mechanical allodynia in rats. Mol Pain. 8(1):26,2012
- 19) Tatsushima Y, Egashira N, Narishige Y, Fukui S, Kawashiri T, Yamauchi Y, Oishi R. Calcium channel blockers reduce oxaliplatin-induced acute neuropathy: A retrospective study of 69 male patients receiving modified FOLFOX6 therapy. Biomed Pharmacother. 67(1): 39-42,2013
- 20) 松岡宏、前田耕太郎ほか。XELOX+Bevacizumab療法におけるチーム医療の実践.日本大腸肛門病会誌.66 : 7-12,2013
- 21) 佐藤美信、前田耕太郎、松岡宏ほか。肛門扁上皮癌に対する化学放射線療法の治療経験. 癌と化学療法.39 : 2179-2181,2012
- 22) Nisa H, Budhathoki S, Morita M, Toyomura K, Nagano J, Ohnaka K, Kon o S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Mae hara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R. Dicrosomal epoxide hydrolase polymorphisms, cigarette smoking, and risk of colorectal cancer: The Fukuoka Colorectal Cancer Study. Mol Carcinog.2012
- 23) Kouso H, Yano T, Maruyama R, Shikada Y, Okamoto T, Haro A, Kakeji Y, Maehara Y. Differences in the expression of epithelial-mesenchymal transition related molecules between primary tumors and pulmonary metastatic tumors in colorectal cancer. Surg Today.2012
- 24) Honma N, Yamamoto K, Ohnaka K, Morita M, Toyomura K, Kono S, Mur amatsu M, Arai T, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasuna mi Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R. Estrogen receptor-β gene polymorphism and colorectal cancer risk:Effect modified by body mass index and isofl avone intake. Int J Cancer.2012
- 25) Wang Z, Joshi AM, Ohnaka K, Morita M, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R. Dietary intakes of retinol, carotenes, vitamin C, and vitamin E and colorectal cancer risk: the Fukuoka colorectal cancer study. Nutr Cancer.2012
- 26) Nakanishi R, Kitao H, Fujinaka Y, Yamashita N, Iimori M, Tokunaga E, Yamashita N, Morita M, Kakeji Y, Maehara Y. FANCJ Expression Predicts the Response to 5-Fluorouracil-Based Chemotherapy in MLH1-Proficient Colorectal Cancer. Ann Surg Oncol. 19(11): 3627-35,2012
- 27) Tashiro N, Budhathoki S, Ohnaka K, Toyomura K, Kono S, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Maekawa T, Yasunami Y, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R. Constipation and colorectal cancer risk: the Fukuoka Colorectal Cancer Study. Asian Pac J Cancer Prev. 12(8):2025-30,2011
- 28) Emi Y, Kakeji Y, Oki E, Saeki H, Ando K, Kitazono M, Sakaguchi Y, Morita M, Samura H, Ogata Y, Akagi Y, Natsugoe S, Shirouzu K, Tokunaga S, Sirzen F, Maehara Y. Kyushu Study Group of Clinical Cancer (KSCC). Initial report of KSCC0803: feasibility study of capecitabine as adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer in Japanese patients. Int J Clin Oncol.2012
- 29) Fujinaka Y, Matsuoka K, Iimori M, Tuul M, Sakasai R, Yoshinaga K, Saeki H, Morita M, Kakeji Y, Gillespie DA, Yamamoto K, Takata M, Kitao H, Maehara Y. ATR-Chk1 signaling pathway and homologous recombinational repair protect cells from 5-fluorouracil cytotoxicity. DNA Repair (Amst) 11(3): 247-58,2012

- 30) Yin G, Morita M, Ohnaka K, Toyomura K, Hamajima N, Mizoue T, Ueki T, Tanaka M, Kakeji Y, Maehara Y, Okamura T, Ikejiri K, Futami K, Yasunami Y, Maekawa T, Takenaka K, Ichimiya H, Terasaka R. Genetic polymorphisms of XRCC1, alcohol consumption, and the risk of colorectal cancer in Japan. J Epidemiol. 22(1):64-71.2012
- 31) Oki E, Emi Y, Akagi Y, Tokunaga S, Sadanaga N, Tanaka T, Ogata Y, Saeki H, Kakeji Y, Baba H, Nishimaki T, Natsugoe S, Shirouzu K, Maehara Y. Phase II Trial of Alternating mFOLFOX6 and FOLFIRI Regimens in the First-Line Treatment for Unresectable or Metastatic Colorectal Cancer (KSCC0701). Oncology. 84(4): 233-9.2013
- 32) Ikeguchi M, Kader A, Takaya S, Fukumoto Y, Osaki T, Saito H, Tatebe S, Wakatsuki T. Treatment of Patients with Stage IV Gastric Cancer. J Gastrointest Cancer. Epub ahead of print. 2012
- 33) Hatata T, Higashi K, Tatebe S, Shomori K, Ikeguchi M. Immunohistochemical study of nuclear factor- $\kappa$ B expression in esophageal squamous cell carcinoma: prognostic significance and sensitivity to treatment with 5-FU. Dis Esophagus. 25: 716-722, 2012
- 34) Saito H, Takaya S, Fukumoto Y, Osaki T, Tatebe S, Ikeguchi M. Clinicopathological characteristics and prognosis of gastric cancer in young patients. Yonago Acta medica. 55: 57-61, 2012
- 35) Saito H, Takaya S, Osaki T, Ikeguchi M. Increased apoptosis and elevated Fas expression in circulating natural killer cells in gastric cancer patients. Gastric Cancer. DOI 10.1007/s10120-012-0210-1, 2012
- 36) Sawayama H, Hayashi N, Watanabe M, Takamori H, Beppu T, Baba H. The central vein access port and catheter in outpatient chemotherapy for colorectal cancer. A retrospective study of 101 patients. Surg Today. 42 (1) : 29-34, 2012
- 37) Nishikawa K, Morita S, Matsui T, Kobayashi M, Takeuchi Y, Takahashi I, Sato S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J, Kakeji Y, Baba H. A randomized phase-II trial comparing sequential and concurrent paclitaxel with oral or parenteral fluorinated pyrimidines for advanced or metastatic gastric cancer. Gastric Cancer. 15 (4) : 363-9, 2012
- 38) Kato T, Muro K, Yamaguchi K, Bando H, Hazama S, Amagai K, Baba H, Denda T, Shi X, Fukase K, Sakamoto J, Mishima H. Cediranib in combination with mFOLFOX6 in Japanese patients with metastatic colorectal cancer: Results from the randomized Phase II part of a Phase I/II study. Ann Oncol. 23(4): 933-41, 2012
- 39) Baba H, Watanabe M, Okabe H, Miyamoto Y, Sakamoto Y, Baba Y, Iwatsuki M, Chikamoto A, Beppu T. Upregulation of ERCC1 and DPD expressions after oxaliplatin based first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer. Br J Cancer. 107(12): 1950-55, 2012
- 40) 馬場祥史、渡邊雅之、馬場秀夫. 抗癌剤【消化管】消化器外科学レビュー. 2012;209-215, 2012
- 41) 宮本裕士、坂本快郎、尾崎宣之、石本崇胤、岩槻政晃、馬場祥史、岩上志朗、吉田直矢、渡邊雅之、馬場秀夫. 大腸癌における抗がん剤の効果判定と変更のタイミング. 癌と化学療法. 39(9):1326-1329, 2012
- 42) 坂本快郎、別府透、今井克憲、林洋光、宮本裕士、近本亮、渡邊雅之、馬場秀夫. 切除可能な大腸癌肝転移に対する治療方針. 癌と化学療法. 39 (9) : 1628-1631, 2012
- 43) Sakamoto Y, Beppu T, Miyamoto Y, Okabe H, Ida S, Imai K, Chikamoto A, Watanabe M, Baba H. Feasibility and short-term outcome of adjuvant FOLFOX after resection of colorectal liver metastases. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 20(3): 307-312, 2013
- 44) Oki E, Emi Y, Akagi Y, Tokunaga S, Sadanaga N, Tanaka T, Ogata Y, Saeki H, Kakeji Y, Baba H, Nishimaki T, Natsugoe S, Shirouzu K, Maehara Y. Phase II trial of alternating mFOLFOX6 and FOLFIRI (FIREFOX) regimens in the first-line treatment of advanced colorectal cancer. Oncology. 84(4):233-239, 2013
- 45) Nitta H, Beppu T, Imai K, Hayashi H, Chikamoto A, Baba H. Adjuvant hepatic arterial infusion chemotherapy after hepatic resection of hepatocellular

- carcinoma with macroscopic vascular invasion. World J Surg. Publish Online (Doi: 10.1007/s00268-013-1957-1)
- 46) Saito S, Hayashi N, Sato N, Iwatsuki M, Baba Y, Sakamoto Y, Miyamoto Y, Watanabe M, Yoshida M, Sakai K, Katsumori T, Katafuchi S, Shigaki N, Yamada K, Kimura M, Tanigawa T, Kamano S, Kuramoto M, Baba H. Chemotherapy with bevacizumab for metastatic colorectal cancer: a retrospective review of 181 Japanese patients. Int J Clin Oncol. Published Online (Doi: 10.1007/s10147-012-0426-4).
- 47) Ueno H, Ioka T, Ikeda M, Ohkawa S, Yanagimoto H, Boku N, Fukutomi A, Sugimori A, Baba H, Yamao K, Shimamura T, Sho M, Kitano M, Cheng AL, Mizumoto K, Chen JS, Furuse J, Funakoshi A, Hatori T, Yamaguchi T, Egawa S, Sato A, Ohashi Y, Okusaka T. Randomized Phase III study of gemcitabine plus S-1(GS) or only S-1 versus gemcitabine in patients with advanced pancreatic cancer in Japan and Taiwan: GEST study. Br J Cancer, in press
- 48) Mochizuki I, Takiuchi H, Ikejiri K, Nakamoto Y, Kinugasa Y, Takagane A, Endo T, Shinozaki H, Takii Y, Takahashi Y, Mochizuki H, Kotake K, Kameoka S, Takahashi K, Watanabe T, Watanabe M, Boku N, Tomita N, Matsubara Y, Sugihara K. Safety of UFT/LV and S-1 as adjuvant therapy for stage III colon cancer in phase III trial : ACTS-CC trial. British Journal of Cancer. 106(7):1268-1273, 2012
- 49) Ishiguro M, Mochizuki H, Tomita N, Shimada Y, Mochizuki H, Takahashi K, Kotake K, Watanabe M, Kanemitsu Y, Ueno H, Ishikawa T, Uetake H, Matsui S, Teramukai S, Sugihara K. Study Protocol of the SACURA trial : a randomized phase III trial of efficacy and safety of UFT as adjuvant chemotherapy for stage II colon cancer. BMC Cancer. 12:281, 2012
- 50) Shitara K, Yatabe Y, Yokota T, Takahashi D, Shibata T, Ura T, Satoh Y, Kodera Y, Muro K. Trastuzumab for a Patient With Heavily Pretreated Gastric Cancer Plus Massive Ascites and Ovarian Metastasis. Gastrointest Cancer Research. 5(3):97-99, 2012
- 51) 小寺泰弘. 腹膜播種病変に対する腹腔内化学療法—臨床における効果—. SURGERY FRONTIER. 19(2):41-45, 2012
- 52) Kodera Y, Ito S, Mochizuki Y, Ohashi N, Tanaka C, Kobayashi D, Kojima H, Matsui T, KKondo K, Fujiwara M.. Long-term follow up of patients who were positive for peritoneal lavage cytology: final report from the CCOG0301 study. Gastric Cancer. 15(3):335-337, 2012
- 53) Tsuburaya A, Morita S, Kodera Y, Kobayashi M, Shitara K, Yamaguchi K, Yoshikawa T, KYoshida K, Yoshino S, Sakamoto J. A randomized phase II trial to elucidate the efficacy of capecitabine plus cisplatin (XP) and S-1 plus cisplatin (SP) as a first-line treatment for advanced gastric cancer: XP ascertainment vs. SP randomized PII trial (XParTS II). BMC Cancer. 12(307):1471-2407, 2012
- 54) Deguchi T, Shikano T, Kasuya H, Nawa A, Fujiwara S, Takeda S, Gewen T, Sahin T, Yamada S, Kanzaki A, Yamamura K, Fujii T, Sujimoto H, Nomoto S, Fukuda S, Nishikawa Y, Kodera Y, Nakao A. Combination of the Tumor Angiogenesis Inhibitor Bevacizumab and Intratumoral Oncolytic Herpes Virus Injections as a Treatment Strategy for Human Gastric Cancers. Hepatogastroenterology. 59(118-119) : 1844-1850, 2012
- 55) Nakayama G, Uehara K, Ishigure K, Yokoyama H, Ishiyama A, Eguchi T, Tsuboi K, Ohashi N, Fujii T, Sugimoto H, Koike M, Fujiwara M, Ando Y, Kodera Y. The Efficacy and safety of bevacizumab beyond first progression in patients treated with first-line mFOLFOX6 followed by second-line FOLFIRI in advanced colorectal cancer: a multicenter, single-arm, phase II trial (CCOG-0801). Cancer Chemother Pharmacol. 70(4) : 575-581, 2012
- 56) Nishi T, Iwasaki, K, Ohashi N, Tanaka C, Kobayashi D, Nakayama G, Koike M, Fujiwara A, Kobayashi T, Kodera Y. Phosphorylation of 4E-BP1 predicts sensitivity to everolimus in gastric cancer cells. Cancer Letters. 331(2):220-229, 2013
- 57) Okuda K, Kawai M, Ueda K, Kodera Y, Nagano H, Murakami Y, Morita S, Sakamoto J, Yamaue H, The JAPAN-PD

- Investigators. Effect of Daikenchuto (TJ-100) on Postoperative Bowel Motility and on Prevention of Paralytic Ileus after Pancreaticoduodenectomy. Japanese Journal of Clinical Oncology. In print, 2013
- 58) Uchiyama C, Kato T. Fatal hypermagnesemia induced by preoperative colon preparation in an elderly woman: Report of a case. CLIJGASTRO.1: Onlin, 2013
- 59) 佐藤武郎, 内藤正規, 池田篤, 小倉直人, 三浦啓壽, 筒井敦子, 中村隆俊, 渡邊昌彦. 術前化学療法の新展開 大腸癌に対する術前化学療法. 癌と化学療法. 39 ( 6 ) :871-875, 2012
- 60) Ishigami S, Arigami T, Okubo K, Sasaki K, Kurahara H, Uenosono Y, Okumura H, Owaki T, Kijima Y, Ueno S, Natsugoe S. Successful treatment of advanced gastric adenocarcinoma with portal tumor thrombosis by total gastrectomy following CDDP and S-1 therapy. Clin J Gastroenterol. 5: 230-233, 2012
- 61) Shinchi H, Maemura K, Mataki Y, Kurahara H, Sakoda M, Ueno S, Hiraki Y, Nakajo M, Natsugoe S, Takao S. A phase II study of oral S-1 with concurrent radiotherapy followed by chemotherapy with S-1 alone for locally advanced pancreatic cancer. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 19(2):152-158, 2012
- 62) 蔵原弘、新地洋之、前村公成、又木雄弘、迫田雅彦、飯野聰、上野真一、平木嘉幸、高尾尊身、夏越祥次. 膵癌同時性肝転移に対する抗癌剤感受性試験に基づく化学療法と定位体幹放射線治療を用いた集学的治療により良好な腫瘍制御効果が得られた1例. 癌と化学療法. 39 ( 3 ) :481-483, 2012
- 63) 石神純也, 有上貴明, 内門泰斗, 奥村浩, 上之園芳一, 夏越祥次. 特集「切除困難例」への化学療法後の手術-根治切除はどこまで可能か. 胃癌に対する化学療法後の手術. 臨床外科. 67:26-30, 2012
- 64) Fujishima Y, Goi T, Kimura Y, Hiroto Y, Katayama K, Yamaguchi A. MUC2 protein expression status is useful in assessing the effects of hyperthermic intraperitoneal chemotherapy or peritoneal dissemination of colon cancer. International Journal of Oncology (Int J Oncol). 40(4):960-964, 2012
- 65) 木村俊久, 澤井利次, 戸川保, 石田誠, 上田順彦, 澤敏治, 山口明夫, 佐藤保則. 術後の Imatanib mesylate 投与が有効と考えられた, 腹膜播種を伴う小腸 GIST の 1 切除症例. 日本消化器外科学会雑誌(日消外会誌). 45(5):530-536, 2012
- 66) 片山寛次, 廣野靖夫, 五井孝憲, 飯田敦, 山口明夫. 2. 胃癌・大腸癌播種性病変に対する腹腔内温熱化学療法. SURGERY FRONTIER. 19(2):27-33, 2012
- 67) 木村洋平, 五井孝憲, 澤井利次, 飯田敦, 片山寛次, 山口明夫. 直腸癌術後多発肝転移再発, 門脈腫瘍塞栓に対し三次治療として Panitumumab が著効した1例. 癌と化学療法. 39(6): 967-969, 2012
- 68) Satoh Y, Goi T, Nakajima T, Kimura Y, Hiroto Y, Katayama K, Yamaguchi A. Polysaccharide K suppresses angiogenesis in colon cancer cells. EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE. 4(3):370-374, 2012
- 69) Goi T, Nakazawa T, Kimura Y, Sawai K, Morikawa M, Katayama K, Momota A, Kubo H, Watanabe K, Masada M, Yamaguchi A. Retrospective Analysis of Chemotherapy-Induced Nausea and Vomiting (CINV) in Colorectal Cancer Patients Treated with Antiemetics. Journal of Palliative Care & Medicine (J Palliative Care Med). 2012
- 70) 中澤俊之, 五井孝憲, 森川充洋, 小練研司, 村上真, 廣野靖夫, 飯田敦, 片山寛次, 山口明夫, 村井アトム. HIPEC を含む集学的治療により長期生存が得られた腹膜播種(P3)を伴う横行結腸癌の1例. 日本外科系連合学会誌(日外科系連会誌). 37(6):1136-1141, 2012
- 71) 木村俊久, 田畑信輔, 戸川保, 恩地英年, 山口明夫, 佐藤保則. 術前化学療法で5年生存した大動脈周囲リンパ節転移胃癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌(日臨外会誌). 74(1):75-80, 2013
- 72) Kobayashi M, Hazama S, Takahashi K, Oba K, Okayama N, Nishioka M, Hinoda Y, Oka M, Okamoto K, Maeda H, Nakamura D, Sakamoto J, Mishima H. Is there diversity among *UGTA1* polymorphism in Japan? World J Gastrointest Oncol. 4(7): 170-175, 2012
- 73) 小山基、村田暁彦、坂本義之、諸橋一、赤坂治枝、横山拓史、畠山佳臣、川口英夫、袴田健一. 直腸癌局所再発に対する集学的治療の現況と治療成績. 癌と化学療法. 39(12):1911-1913, 2012

- 74) 横山 拓史、赤坂 治枝、諸橋 一、坂本 義之、小山 基、村田 曜彦、袴田 健二. T4 直腸癌に対する術前化学療法で病理学的完全奏功が得られた1例. 癌と化学療法. 39(12):1954-1956,2012
- 75) 坂本 義之、村田 曜彦、小山 基、諸橋 一、櫻庭 伸悟、袴田 健一. 直腸扁平上皮癌と考えられた1例. 日本臨床外科学会雑誌. 73(4): 936-41,2012
- 76) 斎田芳久、高橋慶一、長谷川博俊、安野正道、猪股雅史、山口茂樹、赤木由人、浅野道雄、岩本慈能、加藤健志、金澤旭宣、小山基、佐村博徳、福永 瞳、船橋公彦、山本浩文、榎本俊行. 本邦における直腸癌術後の縫合不全に関する全国アンケート調査（第35回大腸疾患外科療法研究会アンケート調査結果. 日本大腸肛門病学会雑誌. 65(7): 355-62,2012
- 77) 村田 曜彦、小山 基、坂本 義之、諸橋 一、神 寛之、長瀬 勇人、袴田 健一. 直腸癌の集学的治療における放射線照射の効果. 癌の臨床. 58(6):367-73,2012
- 78) 櫻庭伸悟、諸橋 一、坂本義之、小山 基、村田暁彦、袴田健二. Crohn病に合併した痔瘻癌の2例. 臨床外科. 68(1):109-113, 2013
- 79) 山田 岳史. Qxaliplatinによる末梢神経障害に対する桂枝加朮附湯と附子の効果. 癌と化学療法.39: 1687-1691,2012
- 80) 山田 岳史. Success Rate of Collagen Gel Droplet-embedded Culture Drug Sensitivity Test in Colorectal Cancer: Are Antibiotics a Prerequisite for Specimen Irrigation ?J Nippon Med Sch. 79:163-165,2012
- 81) Tomojiro Ono. Outcome in disappearing colorectal cancer liver metastases during oxaliplatin-based chemotherapy. Oncol Lett.4:905-909,2012
- 82) 石橋敬一郎. KÖhne's Index を用いた切除不能大腸癌肝転移に対する二次治療 FOLFIRI療法の効果予測. 癌と化学療法. 39 (12) :2182-2184,2012
- 83) 岡田典倫. KÖhne's Index による切除不能・再発大腸癌肝転移に対する一次治療 mFOLFOX療法の効果予測. 癌と化学療法. 39 (12) :2182-2184,2012
- 84) 幡野 哲. 大腸癌同時性・異時性転移切除後の補助化学療法としてのmFOLFOX6療法. 癌と化学療法. 癌と化学療法. 39 (12) : 2192-2194,2012
- 85) 今泉英子. K-Ras野生型切除不能再発大腸癌における一次治療Bevacizumab併用 Oxaliplatinベース化学療法の治療成績. 癌と化学療法. 39 (12) : 2185-2188,2012
- 86) 田島雄介. 大腸癌肝転移・腹膜播種に対して集学的治療を行い長期生存中の1例. 癌と化学療法. 39 (12) :2240-2242,2012
- 87) 高橋孝夫. 大腸がんのレジメンFOLFIRI I±BVおよびFOLFOX±BV. 消化器外科NURSING. 17:46-57,2012
- 88) 高橋孝夫. 大腸癌術後サーベイランス. カレントデラピー.30:49-56,2012
- 89) 高橋孝夫. 大腸癌に対するチーム医療で行う外来化学療法・術後補助化学療法を中心とした外来癌化学療法.4:31-37,2013
- 90) Shitara K, Ikeda J, Kondo C, Takahashi D, Ura T, Muro K, Matsuo K. Reporting patient characteristics and stratification factors in randomized trials of systemic chemotherapy for advanced gastric cancer. Gastric Cancer. 15(2): 137-43,2012
- 91) Shitara K, Yuki S, Yoshida M, Takahashi D, Utsunomiya S, Yokota T, Sato Y, Inaba Y, Tajika M, Kawai H, Yamaura H, Kato M, Yamazaki K, Komatsu Y, Muro K. Phase II study of combination chemotherapy with biweekly cetuximab and irinotecan for wild-type KRAS metastatic colorectal cancer refractory to irinotecan, oxaliplatin, and fluoropyrimidines. Invest New Drugs. 30(2): 787-93,2012
- 92) Shitara K, Yatabe Y, Yokota T, Takahashi D, Shibata T, Ura T, Satoh Y, Koder Y, Muro K. Trastuzumab for a patient with heavily pretreated gastric cancer plus massive ascites and ovarian metastasis. Gastrointest Cancer Res. 5 (3):97-99,2012
- 93) Shitara K, Ikeda J, Yokota T, Takahashi D, Ura T, Muro K, Matsuo K. Progression-free survival and time to progression as surrogate markers of overall survival in patients with advanced gastric cancer: analysis of 36 randomized trials. Invest New Drugs. 30(3): 1224-31, 2012
- 94) Sato Y, Hayakawa Y, Tatematsu M, Muro K, Noma H, Okamoto H. Antiemetic effect of palonosetron in advanced colorectal cancer patients receiving mFOLFOX6 and FOLFIRI: a retrospective survey. 癌と化学療法. 39(8):1215-1219, 2012
- 95) Tsuji Y, Satoh T, Tsuji A, Muro K, Yoshida M, Nishina T, Nagase M, Komatsu Y, Kato T, Miyata Y, Mizutani N, Hashigaki S, Lechuga MJ, Denda T. First-line sunitinib plus FOLFIRI in Japanese patients with unresectable/meta

- static colorectal cancer: a phase II study. *Cancer Sci.* 103(8):1502-1507,2012
- 96) Kondoh C, Takahari D, Shitara K, Mizota A, Nomura M, Yokota T, Ura T, Ito S, Kawai H, Sawaki A, Muro K. Efficacy of docetaxel in patients with paclitaxel-resistant advanced gastric cancer. *癌と化学療法.* 39 (10) :1511-1515,2012
- 97) Yoshino T, Mizunuma N, Yamazaki K, Nishina T, Komatsu Y, Baba H, Tsuji A, Yamaguchi K, Muro K., Sugimoto N, Tsuji Y, Moriwaki T, Esaki T, Hamada C, Tanase T, Ohtsu A. TAS-102 monotherapy for pretreated metastatic colorectal cancer: a double-blind, randomized, placebo-controlled phase 2 trial. *Lancet Oncol.* 13(10):993-1001,2012
- 98) Kim YH, Muro K., Yasui H, Chen J S, Ryu MH, Park SH, Chu KM, Choo SP, Sanchez T, Delacruz C, Mukhopadhyay P, Lainas I, Li CP. A phase II trial of ixabepilone in Asian patients with advanced gastric cancer previously treated with fluoropyrimidine-based chemotherapy. *Cancer Chemother Pharmacol.* 70(4):583-590,2012
- 99) Shitara K, Mizota A, Matsuo K, Satoh Y, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Muro K. Fluoropyrimidine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer with peritoneal metastasis. *Gastric Cancer.* 16(1):48-55, 2013
- 100) Shitara K, Sawaki A, Matsuo K, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Niwa Y, Muro K. A retrospective comparison of S-1 plus cisplatin and capecitabine plus cisplatin for patients with advanced or recurrent gastric cancer. *Int J Clin Oncol.* 2012
- 101) Shitara K, Yatabe Y, Matsuo K, Sugano M, Kondo C, Takahari D, Ura T, Tajika M, Ito S, Muro K. Prognosis of patients with advanced gastric cancer by HER2 status and trastuzumab treatment. *Gastric Cancer.* 2012
- 102) Yamamoto N, Murakami H, Nishina T, Hirashima T, Sugio K, Muro K., Takahashi T, Naito T, Yasui H, Akinaga S, Koh Y, Boku N. The effect of CYP2C19 polymorphism on the safety, tolerability, and pharmacokinetics of tivantinib(ARQ 197): results from a phase I trial in advanced solid tumors. *Annals of Oncology.* 2013
- 103) 室圭. 大腸癌治療における分子標的治療薬の位置づけ. 月刊カレントテラピー別冊. 30(5):81-86,2012
- 104) 室圭. ベバシズマブ 3)大腸がん治療におけるベバシズマブを含むregimenと期待される血管新生阻害薬. *腫瘍内科.* 9(5):495-501,2012
- 105) 谷口浩也、室圭. 胃癌. 最新医学. 67巻 9月増刊号:2144-2157,2012
- 106) 室圭. 消化器疾患診療のすべて. 日本医師会雑誌. 141(2):148-151,2012
- 107) Shimomura M, Hinoi T., Ikeda S, Adachi T, Kawaguchi Y, Tokunaga M, Sasada T, Egi H, Tanabe K, Okajima M, Ohdan H. Preservation of peritoneal fibrinolysis owing to decreased transcription of plasminogen activator inhibitor 1 in peritoneal mesothelial cells suppresses postoperative adhesion formation in laparoscopic surgery. *Surgery.* 153 (3):344-356,2013
- 108) Egi H, Hattori M, Hinoi T., Takakura Y, Kawaguchi Y, Shimomura M, Tokunaga M, Adachi T, Urushihara T, Itamoto T, Ohdan H. Single-port laparoscopic colectomy versus conventional laparoscopic colectomy for colon cancer: a comparison of surgical results. *World J Surg Oncol.* 10:61,2012
- 109) Shimomura M, Okajima M, Hinoi T., Egi H, Takakura Y, Kawaguchi Y, Tokunaga M, Adachi T, Tashiro H, Ohdan H. Identification of patients likely to benefit from metastasectomy in stage IV colorectal cancer. *Int J Colorectal Dis.* 27(10):1339-1346,2012
- 110) Sakai H, Egi H, Hinoi T., Tokunaga M, Kawaguchi Y, Shimomura M, Adachi T, Arihiro K, Ohdan H. Primary lung cancer presenting with metastasis to the colon: a case report. *World J Surg Oncol.* 10:127,2012
- 111) T.Onishi, T.Kosaka, E.Morioka, D.Kaida, Y.Tomita, Y.Ono, M.Noguchi, H.Funaki, S.Kinami, K.Omote, Y.Nakano, N.Ueda. Low preoperative total cholesterol level predicts poor survival following curative resection in gastric cancer. *J. Kanazawa. Med. Univ.* 37:127-131,2012
- 112) 大西敏雄, 木南伸一, 森岡絵美, 甲斐田大資, 大野由夏子, 富田泰斗, 野口美樹, 舟木洋, 表和彦, 中野泰治, 上田順彦, 小坂健夫. 大動脈周囲リンパ節再発に対しCP-T-11+CDDP療法が奏効した胃原発神経内分泌細胞癌の1治験例. *癌と化療.* 39: 2384-2386,2012
- 113) 上田順彦, 森岡絵美, 甲斐田大資, 富田泰斗, 大西敏雄, 大野由夏子, 野口美樹, 舟木洋, 木南伸一, 表和彦, 中野泰治, 小坂健夫, 中田聰子, 湊宏, 高村博之. 薬剤耐性再発GISTに対して肝・横隔膜合併腫瘍

- 切除した1例. 癌と化療.39: 2438-2440,2012
- 114) 森岡絵美, 大野由夏子, 野口美樹, 中野泰治, 野口昌邦, 小坂健夫, 高仲 強. 局所療法(外科的切除とSBRT)と全身療法により長期生存が得られた乳癌再発症例. 癌と化療.39: 1942-1944,2012
- 115) 富田泰斗, 森岡絵美, 甲斐田大資, 大西敏雄, 大野由夏子, 野口美樹, 舟木洋, 木南伸一, 表和彦, 中野泰治, 上田順彦, 野口昌邦, 小坂健夫. 盲腸癌肺転移術後の胸腔鏡ポートサイト再発を切除した1例. 癌と化療.39: 1923-1925,2012
- 116) 江口英利. 局所放射線治療と化学療法を併用した膀胱癌集学的術前治療法の確立(多施設共同臨床試験)一臨床第I/II相試験、進捗報告ー. がん治療のあゆみ.1-6,2012
- 117) 宮田博志、山崎誠、田中晃司、本告正明、矢野雅彦、白石治、彭英峰、安田卓司、森正樹、土岐祐一郎. 特集 「がん治療患者に対する栄養療法—治療完遂をめざした新しい栄養支持療法」食道癌術前化学療法における経腸栄養剤の抗がん剤毒性発現抑制効果の検討. 外科と代謝・栄養. 46(5):121-128,2012
- 118) 宮田博志、山崎誠、土岐祐一郎. 特集 術前補助化学療法をめぐって1 術前補助化学療法の適応と実際—2) 食道がんに対する術前補助化学(放射線)療法が適応となる症例と期待される効果. 臨床腫瘍プラクティス.8 (2) : 116-119,2012
- 119) 黒川幸典、森正樹、土岐祐一郎. 特集 術前補助化学療法をめぐって2. 術前補助化学療法の意義と有用性をめぐって3. GISTに対する術前補助化学療法の意義は? 臨床腫瘍プラクティス.8 (2) : 145-147,2012
- 120) 畑泰司、川西賢秀. 進行再発大腸癌治療におけるBevacizumabの有用性. 日本外科系連合学会誌. 37(2): 72(144)-73(145),2012
- 121) 和田浩志、丸橋繁、小林省吾、川本弘一、江口英利、種村匡弘、梅下浩司、土岐祐一郎、森正樹、永野浩昭. 「第5回日本肺がん分子標的治療研究会」優秀演題論文集 Session5 進行肝細胞癌に対するソラフェニブ初回減量投与による治療成績.The LIVER CANCER JOURNAL.4(2):72(144)-73(145),2012
- 122) 西川晋平、佐藤太郎、今野雅允、原口直紹、加納義浩、福角隆仁、太田勝也、尾崎みゆ希、野口裕子、工藤敏啓、坂井大介、土岐祐一郎、森正樹、石井秀始. 消化器がんの抗がん剤感受性を増感する新技術. がん分子標的治療. 10(3): 46(210)-51(215),2012
- 123) Shitara K,Morita S,Fujitani K,Shigenori K,Takiguchi N,Hirabayashi N,Takahashi M, Takagi M, Tokunaga Y, Fuku shima R, Munakata Y,Nishikawa K, Takagane A ,Tanaka T , Sekishita Y, Sakamoto J,Tsuburaya A. Combination chemotherapy with S-1 plus cisplatin for gastric cancer that recurs after adjuvant chemotherapy with S-1: multi-institutional retrospective analysis. Gastric Cancer.15:245-251,2012
- 124) Kono T, Kaneko A, Omiya Y, Ohbuchi K, Ohno N, Yamamoto M. Epithelial transient receptor potential ankyrin 1 (TRPA1)-dependent adrenomedullin upregulates blood flow in rat small intestine. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.304:428-436,2013
- 125) 河野透. 消化器疾患に対する漢方医療の実際 イレウス. 臨床消化器内科.28:189-196,2012
- 126) 河野透,上園保二腸管血流からみた大建中湯の役割 アメリカ臨床治験薬TU-100 になった理由. 医学のあゆみ.241:163-169,2012
- 127) 伊藤竜哉、沖田憲司、西館敏彦、古畠智久、山下健太郎、篠村恭久、佐藤康史、加藤淳二、平田公一. 局所進行大腸癌のdown stagingを目的としたneo-adjuvant therapy. 外科. 74 (9) : 932-936,2012
- 128) Ueno H,Ioka T,Ikeda M,Ohkawa S, Yanagimoto H,Boku N,Fukutomi A,Sugimori K,Baba H,Yamao K,Shimamura T,Sho M,Kitao M,Cheng AL,Mizumoto K,Chen JS,Furuse J,Funakoshi A,Hatori T,Yamaguchi T,Egawa S,Sato A,Ohashi Y,Okusaka T,Tanaka M. Randomized Phase III Study of Gemcitabine Plus S-1, S-1 Alone, or Gemcitabine Alone in Patients With Locally Advanced and Metastatic Pancreatic Cancer in Japan and Taiwan: GEST Study. J Clin Oncol doi.2013
- 129) Yamada M, Kaibori M, Tanaka H, Habara K, Hijikawa T, Tanaka Y, Oishi M, Okumura T, Nishizawa M, Kwon AH. Alpha-lipoic acid prevents the induction of iNOS gene expression through destabilization of its mRNA in proinflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. Dig Dis Sci. 57(4) : 943-951,2012
- 130) Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Yamamoto T, Kamata M, Ohe C, Sakaida N, Uemura Y, Kitade H, Tanigawa N, Inoue K, Matsui Y, Kwon AH. Neoadjuvant chemoradiation therapy using S-1 followed by surgical resection in patients with pancreatic cancer. Journal of Gastrointestinal Surgery. 16(4) : 784-792,2012
- 131) Yamao J, Toyokawa H, Kim S, Yamaaki S, Satoi S, Yanagimoto H, Yamamo

- to T, Hirooka S, Matsui Y, Kwon AH. Activation of alpha-smooth muscle actin-positive myofibroblast-like cells after chemotherapy with gemcitabine in a rat orthotopic pancreatic cancer model. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 20(2) : 206-213,2013
- 132) Yamamoto D, Iwase S, Tsubota Y, Sueoka N, Yamamoto C, Kitamura K, Odagiri H, Nagumo Y. Bevacizumab in the treatment of five patients with breast cancer and brain metastases: Japan Breast Cancer Research Network-07 trial. *Onco Targets Ther.* 5 : 185-189,2012
- 133) Kaibori M, Tanigawa N, Kariya S, Ikeda H, Nakahashi Y, Hirohara J, Koreda C, Seki T, Sawada S, Okazaki K, Kwon AH. A prospective randomized controlled trial of preoperative whole-liver chemolipiodolization for hepatocellular carcinoma. *Dig Dis Sci.* 57(5) : 1404-1412,2012
- 134) 海堀 昌樹、岩本 慎能、石崎 守彦、松井 康輔、岡崎 智、神原 達也、井上 健太郎、徳原 克治、吉岡 和彦、權 雅憲. 大腸癌肝転移に対する肝切除術を考慮した術前化学療法. 日本外科系連合学会誌. 37(4) : 696-701,2012
- 135) 海堀 昌樹, 石崎 守彦, 松井 康輔, 權 雅憲. ソラフェニブ投与進行肝細胞癌患者に対する人參養榮湯の併用効果の検討. 医学と薬学. 67(3) : 445-447,2012
- 136) 吉田 良, 松浦 節, 肱川 健, 柳田英佐, 北出浩章, 高田秀穂, 權 雅憲. Panitumumab併用FOLFIRI療法により治療可能となった切除不能上行結腸癌多発肝転移の1例. 癌と化学療法. 1575-1577,2012
- 137) 石崎守彦, 海堀昌樹, 松井康輔, 中竹利知、松島英之, 坂口達馬, 權 雅憲. 動注化学療法後に門脈腫瘍栓が縮小し切除した肝細胞癌の1例. 癌と化学療法. 39(12):1991-1993,2012
- 138) Hiroyuki Kato,Masanobu Nakajima. The Efficacy of FDG-PET for the Management of Esophageal Cancer:Review Article. *Annals of Thoracic Cardiovascular Surgery.* 18(5):412-419,2012
- 139) Fukuchi M, Tsukagoshi R, Sakurai S, Suzuki M, Naitoh H, Yamauchi H, Tabe Y, Fukasawa T, Kiriyama S, Kuwano H. Adult Intussusception Caused by Descending Colon Cancer during Chemotherapy of Stomach Cancer Recurrence. *Case Rep Gastroenterol.* 6(1):88-93,2012
- 140) Kobayashi T, Suzuki H, Kubo N, Watanabe A, Sasaki S, Wada W, Araki K, Shimura T, Kuwano H. A Case of Hepatocellular Carcinoma With Portal Vein Tumor Thrombosis Successfully Treated by a Combination of Intra-Arterial Infusion 5-Fluorouracil, Cisplatin, and Systemic Interferon- $\alpha$  Therapies. *Int Surg.* 97(3):230-234,2012
- 141) Mochiki E, Ogata K, Ohno T, Toyomasu Y, Haga N, Fukai Y, Aihara R, Ando H, Uchida N, Asao T, Kuwano H. Phase II multi-institutional prospective randomised trial comparing S-1+paclitaxel with S-1+cisplatin in patients with unresectable and/or recurrent advanced gastric cancer. *Br J Cancer.* 107(1):31-36,2012
- 142) Tsutsumi S, Fukasawa T, Fujii T, Abe Y, Kigure W, Asao T, Kuwano H. Central venous port system-related complications in outpatient chemotherapy for colorectal cancer. *Hepatogastroenterology.* 59(116): 1079-80,2012
- 143) 桑野博行. 特集 グレリインと六君子湯 臨床研究:胃癌化学療法に対する検討「S-1+CDDP併用療法の食欲不振に対する六君子湯の効果」. 漢方医学.Vol36,No3:194-197
- 144) 持木彌人、桑野博行. 高齢者の上部消化管術後の消化管運動障害と対策. 『Geriatric Medicine(老年医学). Vol.50 N.8.933,2012
- 145) 浅尾高行、桑野博行. 医薬品副作用学(第2版) 一薬剤の安全使用アップデート—III.副作用各論—重大な副作用—皮膚 手足症候群. 『日本臨牀』 Vol.70, No.6:511-515,2012
- 146) 猪瀬崇徳、宮崎達也、酒井 真、小澤大悟、鈴木茂正、田中成岳、横堀武彦、宗田真、桑野博行. 特集 消化器癌に対するneo-adjuvant therapyの最新情報 「2.頸部食道癌に対する機能温存目的のneo-adjuvant therapy」. 『外科』 Vol.74, No.9:921-925,2012
- 147) Yanai M, Mochiki E, Ogawa A, Morita H, Toyomasu Y, Ogata K, Tabe Y, Ando H, Ohno T, Asao T, Aomori T, Fujita Y, Kuwano H. Intragastric administration of rikkunshito stimulates upper gastrointestinal motility and gastric emptying in conscious dogs. *J Gastroenterol.* Published online,2012
- 148) Miyazaki T, Sohda M, Tanaka N, Suzuki S, Ieta K, Sakai M, Sano A, Yokobori T, Inose T, Nakajima M, Fukuchi M, Ojima H, Kato H, Kuwano H. Phase I dose-escalation study of docetaxel, nedaplatin and 5-fluorouracil combination chemotherapy in patients with advanced esophageal cancer. *Cancer Chemother Ph*

- 149) Kobayashi T, Suzuki H, Kubo N, Wat  
anabe A, Sasaki S, Wada W, Araki K, S  
himura T, Kuwano H. Portal Vein Tum  
or Thrombosis Successfully Treated by  
a Combination of Intra-Arterial Infusio  
n 5-Fluorouracil, Cisplatin, and System  
ic Interferon- $\alpha$  Therapies. Int Surg. 97  
(3):230-234,2012
- 150) Tsutsumi S, IshibashiK, UchidaN, Oji  
maH, HosouchiY, YashudaN, KigureW,  
YamauchiS, AsaoT, IshidaH, Kuwano H.  
Phase II trial of chemotherapy plus  
bevacizumab as second-line therapy for  
patientswith metastatic colorectal cancer  
thatprogressedonbevacizumabwithchemo  
therapy:theGunmaClinical Oncology Gro  
up (GCOG) trial 001 SILK study.  
Oncology.83(3):151-157,2012
- 151) Oki E, Emi Y, Akagi Y, Tokunaga S,  
Sadanaga N, Tanaka T, Ogata Y, Saeki H,  
Kakeji Y, Baba H, Nishimaki T,  
Natsugoe S, Shirouzu K, Maebara Y.  
Phase II Trial of Alternating mFOLFOX6  
and FOLFIRI Regimens in the First-Line  
Treatment for Unresectable or  
Metastatic Colorectal  
Cancer(KSCC0701).Oncology.84(4):233-2  
39,2013
- 152) 沖 英次, 前原 喜彦. 臨床現場が知りた  
い大腸がん薬物治療】効果的な治療法の選  
択 専門医からのアドバイス ファースト  
ラインからベバシズマブを使用していく  
か? 臨床腫瘍プラクティス(1880-3083). 8  
巻4号:350-354
- 153) Saeki H, Toh Y, Morita M, Sugiyam  
a M, Morita K, Sakamoto Y, Soejima  
Y, Minami K, Sakaguchi Y, Higaki Y,  
Uehara S, Okamura T, Maebara Y. Th  
etreatmentoutcomes of synchronousand  
metachronousesophagealsquamouscellcar  
cinoma and head and neck squamous c  
ell carcinoma.Esophagus.9:158-164,2012

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル 名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
高松泰、相羽 恵介、照井康 仁、大曲貴夫、 神田善伸、齋 藤博、吉田稔、 秋山暢、木村 俊一、草場仁 志、坂尻さく ら、高田徹、 高橋孝輔、原 田壮平、藤田 浩之、塩野哲 也、矢野真吾、 室圭  、岩田健太郎、 高野利実、中 川靖章、山本 一仁		日本臨床腫 瘍学会	発熱性好中球 減少症(FN)診 療ガイドライン	南江堂	日本	2012	iv-xv、 2~70
小坂健夫	がん診療の現 状:大腸癌	泉孝英	今日の診療の日経メディカル開発 ために ガイドライン外来診療 2013	東京	東京	2013	563-567
河野透	今日のがん治 療を支える漢 方薬のエビデ ンス	今津嘉宏	がん漢方	南山堂	東京	2012	16-25
掛地吉弘 河野透	EBMによるが ん領域の漢方 の使い方	掛地吉弘 河野透	EBMによるが ん領域の漢方 の使い方	ライフサイエンス	東京	2012	1-49

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yoshida R,Tazawa H,Hashimoto Y,Yano S,Onishi T,Sasaki T,Shirakawa Y,Kishimoto H,Uno F,Nishizaki M,Kagawa S, <u>Fujiwara T.</u>	Mechanism of resistance to trastuzumab and molecular sensitization via ADCC activation by exogenous expression of HER2-extracellular domain in human cancer cells	Cancer Immunother.	61	1905-1916	2012
Watanabe Y,Hashimoto Y,Kagawa S,Kawamura,Nagaoka K,Tanaka N,Uratani Y, <u>Fujiwara T.</u>	Enhanced antitumor efficacy of telomerase-specific oncolytic adenovirus with valproic acid against human cancer cells	Cancer Gene Ther.	19	767-772	2012
Ohara T,Noma K,Urano S,Watanabe S,Nishitani S, Tomono Y,Kimura F,Kagawa S, Shirakawa Y, <u>Fujiwara T.</u>	A novel synergistic effect of iron depletion on anti-angiogenic cancer therapy	Int. J. Cancer	in press		2012
Shigeyasu K,Kagawa S,Uno F,Nishizaki M,Gochi A,Kimura,Takahashi T,Nonaka Y,Nishimura M, <u>Fujiwara T.</u>	Multicenter phase II study of S-1 and docetaxel combination chemotherapy for advanced or recurrent gastric cancer patients with peritoneal dissemination	Cancer Chemotherapy Pharmacol.	in press		2013
Yoshikawa K, Shimada M, Nishioka M, Kurita N, Iwata T, Morimoto S, Miyatani T, Komatsu M, Kashihara H, Mikami C.	The effects of the Kampo medicine (Japanese herbal medicine) “Daikenchuto” on the surgical inflammatory response	Surg Today	42(7)	646-651	2012
Chikakiyo M, Shimada M, Nakao T, Higashijima J, Yoshikawa K,	Kampo medicine “Dai-kei-nchu-to” prevents CPT-1 induced small intestinal injury in rats.	Surg Today	42(1)	60-67	2012
Maehara Y,Tsujitani S,Saeki H,Oki E,Yoshinaga K,Emi Y,Morita M,Kohnoe S,Kakeji Y,Yano T,Baba H.	Biological mechanism and clinical effect of protein-bound polysaccharide K(KRESTIN®):review of development and future perspectives	Surg Today	42(1)	8-28	2012

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tsuji Y,Satoh T, Tsuji A,Muro K, <u>Yoshida M,Nishi</u> na T,Nagase M, Komatsu Y,Kato T,Miyata Y,Mizu tani N,Hashigaki S,Lechuga J M, Denda T.	First-line sunitinib plus FOLFIRI in Japanese p atients with unresectabl e/metastatic colorectal c ancer: A phase II study	Cancer Science	103 (8)	1502-1507	2012
Iwasa S,Goto <u>M,Yasui H,Nishi</u> na T,Takahashi D,Nakayama N,T aira K,Kusaba H,Fuse N,Hirona ka S,Shimada Y, Nakajima TE.	Multicenter feasibility st udy of combination ther apy with Fluorouracil, L eucovorin and Paclitaxel (FLTAX) for peritoneal disseminated gastric ca ncer with massive ascite s or inadequate oral int ake	Jpn J Clin On	42 (9)	787-93	2012
Yoshida M,Goto <u>M,Kii T,Nishitan</u> i H,Kawabe S,Ku wakado S,Asaishi K,Miyamoto T, Higuchi K	Retrospective study as fi rst-line chemotherapy co mbined anti-VEGF antib ody with fluoropyrimidin e for frail patients with unresectable or metast atic colorectal cancer	Digestion	2013 (87)	59-64	2013
Takahashi T, Shi bata Y, Tojima Y, Tsuboi K, Sak amoto E, Kunied a K, Matsuoka H, Suzumura K, Sato M, Nagano uma T, Sakamot o J, Morita S, K ondo K.	Multicenter phase II stu dy of modified FOLFOX 6 as neoadjuvant chem otherapy for patients wit h unresectable liver-only metastases from colorec tal cancer in Japan: RO OF study	International J ournal of Clin ical Oncology	In press		2012
Sugihara M, Mor ita S, Yamanouc hi N, Sakai S, O hba N, Ichikawa W, Ohashi Y.	Dynamic registration me thod with balancing for prognostic factors in ob servational studies.	Journal of Bio metrics & Bios tatistics.			In press
緒方裕、竹内正昭、 石橋生哉、岐部史 郎、高橋健二郎、 内田信治、村上直 孝、矢原敏郎、白 水和雄	成分栄養製剤エレンタール 投与による大腸癌化学療法 誘発口内炎の予防効果	癌と化学療法	39(4)	583-587	2012